

視野が広がる行政評価局調査

様々なテーマの調査を行っています!

私は現在、中部管区行政評価局で「行政評価局調査」の業務に携わっています。行政評価局調査には大きく2つの種類があり、管区行政評価局では、本省が企画した「全国計画調査」の現地調査を行う他に、地域の行政課題について、独自のテーマを設定し、現地的な改善を図る「地域計画調査」も行っております。

調査のテーマは原則4カ月ごとに変わるため、様々なテーマを経験できます。私は1年間で建設残土対策や外国人技能実習生の雇用維持支援など、これまでに触れたことのない分野の調査に挑戦しました。新しいテーマが始まる度に、一から情報を収集し、関連する制度の勉強した上で、課題の本質を明らかにしていく過程は、行政評価局調査の難しいところであると同時に、新しい世界に触れることで自分の知識がどんどん増えていく、面白さがあります。

人との繋がりを大切に

行政評価局調査では、国の行政機関だけでなく、地方自治体や民間企業、NPO法人などにおける実態を把握することが不可欠であり、様々な方に協力いただくことで調査が成り立っています。

調査では、どんなところに困っているか、改善して欲しいことはないかなど、現場で働いている方たちの声を具体的に聞き取り、理解する必要があります。また、調査の目的をしっかりと説明し、調査相手と信頼関係を構築し、じっくりと話を聞くことがより良い調査に繋がると考えています。実際に、その分野のスペシャリストである調査相手から、事前の情報収集では予想できなかった実態を教えていただいたこともありました。

分野を限らず、様々な人とふれあい、さらに自分を成長させることができる。これは総務省ならではの魅力だと思います。



暮らしやすい社会をつくるために

一人一人に寄り添い、耳を傾ける

私は現在、鳥取行政監視行政相談センター行政監視行政相談課に所属しています。行政監視行政相談課では、国民の皆様から国等の行政に関する苦情や意見等の相談を受け付けて、担当行政機関とは異なる立場から行政の制度・運営の改善につなげる行政相談を行っています。

また、総務大臣から委嘱された行政相談委員の活動をサポートすることも大切な仕事の1つです。行政相談委員は、住民から相談を受け付けるため各地で行政相談所を開設するほか、行政相談懇話会、出前教室等を開催して、行政相談(委員)制度のPR活動を行っています。

行政相談は、国民一人一人のお困りごとに耳を傾けるところから始まります。私たちが、国民の皆様の声をしっかり聴き取り、行政にその声を届けることで、より良い行政の実現を図ることができるのです。



子どもたちの未来につなぐ

行政相談委員制度は、令和3年に60周年を迎えます。60年という節目を契機として、行政相談を国民により深く浸透させるため、様々なPR活動を行っています。その取り組みの1つとして、私たちは、行政相談委員を中心に、小学校等に向向いて行政相談(委員)制度等について説明する出前教室を実施しています。特に、印象深い出来事として、ある出前教室の最後に、「大きくなったら、行政相談委員さんになりたい」と感想を述べてくれた子がいました。この時、私は非常に感動し、子どもたちに行政相談(委員)制度の意義と重要性を伝えることができたと感じました。

多くの先輩方が支え、守ってきた行政相談(委員)制度を国民の皆様にも広く知っていただくこと、そして次の世代に伝えていくことが今、私たちに課せられているミッションだと思います。



東海総合通信局 情報通信部 電気通信事業課長

浅川 貴義 Asakawa Takayoshi

本省から総合通信局へ

制度づくりと制度運用

私の所属する電気通信事業課は通信サービスを提供する電気通信事業者(実は全国に2万者ほどいます)の管理監督や青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備を業務としています。現職に就くまでは本省のみで働いており、例えば格安スマホの普及促進や携帯料金の低廉化に向けたガイドラインの策定など制度作りの業務に携わって来ましたが、総合通信局は様々な業務の最前線です。今では毎日のようにたくさんの通信事業者の方々からの手続きに関して相談に乗ったり、小学校で子どもたちの顔を見ながらネットの使い方講座を実施したりするなどその制度を運用する現場にいます。直接関係者と接する機会が多く、自分が行っている業務の効果をストレートに感じられることが本省とは違った総合通信局で働く醍醐味ではないかと思っています。

なんでもやってみよう

総務省はとても幅広い業務を経験できることが魅力だと思っています。「部署が色々変わったら上手くやっていけるかな?」と心配になるかもしれません。でも周りの同僚がしっかりサポートしてくれるので大丈夫です。私も電気通信、郵政行政、統計業務や人事業務と多様な経験をしてきた上で、今では初めての地方勤務・管理職となっていますが、これまでの場所での経験が全て役に立っており、課のメンバーの支えがあって頑張ることができています。単に「色々な仕事ができますよ」というだけではなく将来に向かって自身の糧となる経験ができますし、自分がチャレンジしてみたいと思うことがあればその機会もあります。(今の仕事も「やってみるか!」と言われて臨ませてもらっています)一つでも興味のある分野があったら総務省で一緒に働いてみませんか!



近畿総合通信局 情報通信部 情報通信振興課

岩田 有里 Iwata Yuri

未来を見据えて

肌で感じる施策実現

私はいま、近畿総合通信局で地元の自治体や民間企業等と連携しながら本省で策定された情報通信施策の実現に取り組んでいます。

本省在籍時は制度づくりを担当し、幅広く公平な視点に立って取り組むことが重要だと考えていましたが、近畿総合通信局に異動後、地元の自治体や民間企業等とやり取りする中で、本省では気づかなかった施策の良い点や改善点をダイレクトに感じるが多々ありました。幅広く公平な視点に立つことは重要ですが、さらに一歩踏み込んで、地域の実情に応じて細やかにフォローできる施策づくりも大切であると学ばせていただいております。

近畿総合通信局の経験や学びを本省へフィードバックし、施策を享受する国民により良いサービスを届けられるよう、前進していきたいです。



未来に貢献できる仕事

皆さんはどんな仕事に魅力を感じますか?総務省では自治行政から行政評価、情報通信まで幅広い業務を所管しています。私が所属する情報通信分野は、ICT関係に限らず、医療や教育など他分野との関連が広がりつつあります。今後ICT施策の道筋をどのように示していくかによって、数十年後の日本社会の発展に大きく関わるものだと考えております。現在から未来の社会にひろく貢献できるところが、情報通信分野の魅力だと感じています。

また、職場では若手の意見を尊重してくれることも多いため、上司や先輩方と一緒に考え、話し合いながら仕事を進められることも魅力の1つです。

少しでも興味を抱かれた方は、ぜひ総務省へ足を運んでみてください!

